



18



福島医大ふくしま子ども・
女性医療支援センター教授

横山 浩之氏

これまで私が担当してきた過去の記事では、「早寝・早起き・朝ごはん」「メディアの問題」「お手伝い」「絵本の読み聞かせ」「しつけの3原則」について取り上げました。

これらは「子育ての知恵」といるべき内容です。これららの意義については、過去の記事を参考にしていただくとしましょう。

さて「早寝・早起き・朝ごはん」「メディアの問題」「お手伝い」「絵本の読み聞かせ」「しつけの3原則」について取り上げました。こ

けの3原則の全てに共通していることがあります。内容や意義を考えてみると、共通していることは一見ないように見え

半で教え始められることです。小児科医が乳幼児健診をするとき、参考にする資料に、遠城寺式乳幼児発達分析的検査があ

る時期が示されています。「お手伝い」「絵本の読み聞かせ」も「しつけの3原則」も一歳三ヶ月ないし一歳半で90%

で安定した愛着形成である安定した愛着形

成していく時期であることをから、この時期が将来の行動特性に影響を与える

あります。言つて聞かせる前に、してみせなければ説得力がないのです。

まねさせて、ほめる

ます。ところが、子ども

の発達を知っていると、共通していることがあります。

ます。九州大小兒科の遠城寺宗得教授が作成した発達検査で、行動の様子を観察するだけで判定

ています。

スマナーに相当するか

ふくしま子ども・女性医療支援センター

<http://www.fmu.ac.jp/home/fmccw/>